なにが…みえましたか？　25日開幕　▶▶▶⑥

「世界」が手の届くところに

広報プロデューサー　マリ・クリスティーヌさん

＝小林理幸写す

―万博の印象は？

こんなにぴったり「地球大交流」というサブテーマが当てはまるとは思ってもみませんでした。初めは、国際的な雰囲気だけ作って終わるのではと警戒してたんです。

でも、いざ始まると、人と人の交流が見えてきた。「怖い黒人」が実はいい人だと知って、わが子を抱っこさせたり。手の届くところに世界があることを、特に地元のリピーターには感じてもらえたでしょう。

―良かったのは。

参加国と愛知県内の自治体が交流するフレンドシップ事業ですね。初めは「大使館って日本語は通じるの？」なんて悩んでいた市町の応援があってこそ、ナショナルデーは支えられた。異国で自分の国の国旗を振って歓迎されるのは、すごくうれしいものです。万博後に続く関係ができた地域や、国際結婚もあった。そんな体験を重ねていくことで、本当に開けた国になっていくのでは。

特に、途上国には「日本に来たことが人生で一番の出来事」という人もいます。そういう人こそ大切。明治時代、夏目漱石が英国で博覧会を見たように、日本を語り継ぐ人に育ってくれますから。

―運営する側に「第三者」として入って、イライラはなかった？

葛藤はたくさんありました。でも、代弁するつもりはないけど、いろんな企業文化から出向で集まった「寄り合い所帯」なのに、これだけ組織力が出せたのは、日本人の勤勉さの表れだと思います。特に、安全に対する勤勉さはすごい。責任ある人が自ら、グローバル・ループを夜通し歩いて、問題個所を調べる。やりかけたらきちっとやるというまじめさを、外国人は尊敬します。

いろいろなところに登場し、愛知万博をＰＲしたモリゾーとキッコロ＝８月14日、兵藤公治写す

―「環境博」という面では。

外国メディアの関心は何よりも環境でした。２００以上もの環境項目を自己規制した万博は歴史に残る。だから、上海は大変ですよ。

それと、反対運動があったからこそ、気持ちが改まり、県も協会も環境に配慮するようになったと思います。この相乗効果は、他のどんな場面にも活用できる。メディアも役割を果たしました。問題点を出し、改善を導く。そのキャッチボールがないと健全な社会にはならない。批判ばかりでも萎縮するけど、協会も反応が早かった。

―万博後に願うことは。

グローバル・ループはぜひ、市民の声で残してほしいですね。ループを歩いていない観客はいないし。歩くだけでハッピー、笑顔が世界を結び、人々を結ぶ―。そんな万博のシンボルが消えたら、万博の記憶が失われてしまう。「一部を残す」だなんて、全部あるからループなんですよ。

【山田大輔】

＝つづく

愛・地球博